

佳作
(子どもの部)

「せかいいち うつくしい ぼくの村」

荒川区立尾久小学校三年

太田 和範

柳田先生、お元気ですか。ぼくは今年の夏休みに、テレビでアフガニスタンという国が戦場になっているのを見ました。多くの人が、にげ出すのを見てこわくなってしまいました。でも、アフガニスタンという国を知らないのです、お母さんといっしょに、図書館でその国のことが書いてある本をさがしてみました。『せかいいち うつくしい ぼくの村』という絵本を見つけました。

絵本に出てくるアフガニスタンは、冬は、雪をか

ぶったきれいな山がっらなり、春には花がさきみだれます。夏には、アンズ・スモモ・サクランボなど、たくさんのお菓子が実る自然ゆたかな国です。とてもきれいでした。

弟のヤモは、戦争に行っているお兄さんハルンのことをずっとおもっています。ヤモはお兄さんの代わりに、家の仕事を手伝いました。お父さんにごほうびに買ってもらった子羊にバハール(春)と名前をつけました。ぼくは、なぜバハール(春)なのかを考えました。きっと、花がさく明るい春に、お兄さんが戦争から帰ってきて、家族がしあわせにくらせますようにと、子羊に希望をこめたのだと思います。ヤモがっらい時をのりこえようとしてつけた名前だと思いました。

しかし物語は、

「ことしのふゆ 村はせんそうではかいされ
いまはもうありません。」

と終わってしまいます。ぼくは、春をまたずに、
せかいいちうつくしい村はなくなってしまったの
だと分かり、おねがくるしくなりました。

ぼくのたん生日は、八月十五日です。終戦記念日
です。お父さんとお母さんが、平和の和という字を
使って、和やかに育ちますようにと和範（かずのり）
と名前をつけてくれました。アフガニスタンが、せ
かいいちうつくしい村をとりもどし、平和がおと
ずれますように。